

すずか倶楽部 中西 大輔 議員



- 1 地域公共交通と地域活性化について
- 2 産業支援策について
- 3 鈴鹿市における地域とは

質問1 既存の道路を活かした公共交通網を整備し、各公民館や駅等をつなぐことにより、地域間交流を促進し、高齢者等の交通弱者にやさしい地域公共交通網を整備できないか。モデルとして長太公民館周辺から白子駅に至るコミュニティバスを提案する。

答弁1 現在、市東部のコミュニティバス導入は考えていないが、各地域における基礎的な情報収集に努め、地域公共交通の問題点の整理を行い、市内全体の交通課題や公共交通網整備の方向性を検討したい。

質問2 世界的な経済不況の影響で、本市の中小企

業等にも大きな影響があると思われる。特に生産調整等により仕事がない状況に対し、地域内産業の仕事創出という面での産業政策を考えているのか。

答弁2 ハイブリッド車等新世代自動車などの、技術革新に対応できるよう、技術の高度化を確立すべく、産学官研究開発支援研究開発補助に係る支援や、高等教育機関から中小企業への研究成果の発信や技術移転等に対し、今まで以上に注力したい。

質問3 市の各施策において想定されている「地域」について、その位置付けや捉え方に一貫したものがないが、コーディネートする部署が必要ではないか。

答弁3 「地域」の捉え方については各担当にて考えるが、横の連携を緊密にしていきたい。

あくていぶ21 森田 治已 議員



- 1 消防力の充実強化について
 - (1) 消防庁舎の建設について
 - (2) 消防職員体制充実について
 - (3) 災害時の他市との応援体制は
 - (4) 消防団と自主防災の連携について

質問1(1) 安全安心なまちをめざし、「拠点整備を含む消防力の強化」がうたわれる中、庁舎建設の全体像が見えない。20万都市にふさわしい規模や完成時期等の考えは。

答弁1(1) 基本構想として敷地面積は8,800m²で、災害対策本部のサブ機能を備えたもの、災害に耐えるもの、24時間体制に対応でき、女性職員の採用に対応できるものを考えている。H21年度までに実施設計を

策定し早期に完成をめざす。

質問1(2) 消防職員数は1,000人に1人がふさわしいが当市では現在186人。増員の見込みはあるのか。

答弁1(2) 来年の増員は3人になる予定。

質問1(3) 他市との消防活動の協定や、大規模災害時の応援体制の概要は。

答弁1(3) 隣接応援は、消火活動も災害時も消防組織法の下締結されているが実情に合った内容に変更していくように検討していく。

質問1(4) 地元の消防団や自主防災隊とが協力をしていける活動環境の整備が必要と思うが、どの様に連携・整備を考えているのか。

答弁1(4) 消防分団ごとに指導を強化し、3ヵ年で参加人員も倍増し訓練内容も変え連携強化に努める。

市政研究会 大西 克美 議員



- 1 住基ネットサービスの利用について
- 2 中小企業への緊急支援対策について
- 3 災害要援護者台帳について

質問1 5年間で2,876枚の住基カード発行についてどう考えているか。利用できるものは以前に比べ増加しているのか。導入経費と比較しての効果は。図書館貸出等に利用することはできないか。

答弁1 この一年間で、1,400枚の発行となっており、原因としては国税納税システムの影響がある。加えて、住民票の写し等交付の際に本人確認のための書類のひとつとして利用されている。効果に

ついては数値としては把握していないが、あると考えている。今後のカード利用については検討したい。

質問2 鈴鹿商工会議所の緊急アンケートにもあるように、経営への影響があると答えた9割の事業所が大変であるという経済状況下で鈴鹿市としては緊急に手を打つべきではないのか。

答弁2 現在のような大規模な経済危機に対しては、国・県・市がそれぞれ役割分担をし対応していきたい。緊急支援策については、今後調査の結果を踏まえ、鈴鹿商工会議所と連携した相談業務を実施したい。

質問3 災害要援護者台帳作成に向けた取組は。

答弁3 災害要援護者台帳に記載する事に同意した方のみを登録し、写しを市民センターに保管し、災害時に活用したい。

